

本物志向のボクシング・ファンに読んでほしい

BOXING

BEAT

新たな
専門誌
デビュー第2弾

アイアンマン9月号増刊

ボクシング・ビート

9 | SEP. 2009
定価 920 YEN

本物×本物

王者西岡&リナレス揃って防衛戦

長谷川はどこまで強くなる?

栗生は最強の刺客に苦杯も、復活誓う

アフリカンボクシング

昨日・今日・明日 歴代ベストは誰か?

だからボクシングは怖い、おもしろい!

09年、相次ぐ内外の「番狂わせ劇」

改めて問う それでも日本は
WBA、WBC以外認めないのか?

<アンケート付き>

飯田覚士の好評連載対談

ゲスト **清水智信**

S



Upset, Upset!.....CASE.5
小林タカヤス × 升田貴久戦
世界挑戦予定者やられた

無名・小林がデンガオセン挑戦の話をあつた升田に10回判定勝ち。終盤にポイントを取られた。フライ級戦線がさらに混とんとなる(6月8日)

きた。2回には右フックで王者をロープへと後退させ、カウントを聞かせる。終盤になっても勢いは失速せず、木村のお株を奪うかのようなトリッキーな動きまで披露した。木村が日本人に負けたのは実に7年ぶり。木村の敗戦は近年でも最大級の番狂わせだろう。

「強い者が必ず勝つのではない、勝った者が強い」。ことボクシングの番狂わせほど、これを証明するものはない。

中でも大橋弘政 (HEIWA) がロリー松下 (カシミ) の東洋太平洋S・バンタム級王座に挑んだ試合はその典型だ。2階級制覇の輸入選手ロリーは実績、実力で大橋を上回り、まず防衛はかたいと目されていた

た。実際に試合は予想どおりの展開で進んだが、挑戦者大橋のしつこいアタックにロリーは失速。7回に逆転のテンカウントを聞かされたのである。

のちに大橋本人が告白したものだ。「99-01で不利だと思っていた。さすがに本誌もそこまで思っていない切ったオッズは出せないが、ロリーの圧倒的優位だったのは間違いない。一方で大橋はこうも言う。「木村、石井が負けたのを見てもボクシングに絶対はないと思っていた」。

大橋にしる、先の小野寺にしる、大番狂わせの要因に「気持ちです」と声をそろえる。しかし気迫だけで名王者がやられるはずもない。大橋はロリーと中間距離で戦っては勝て

「強い者が必ず勝つとは限らない」を証明した大橋 × ロリー戦



Upset, Upset!.....CASE.6
大橋弘政 × ロリー松下戦
東洋の強豪沈む

今年上半期のビッグ・アップセット。東洋2階級制覇に成功したロリーが伏兵・大橋にまさかの逆転KO負けでS・バンタム級王座失う。佐藤修-ヨードムロン戦を想起させる展開だった(6月21日)

ないと、相手の足を見て中に入り、フデイ連打する練習ばかりした。フライ級上がりのロリーの腹はだぶつきがあるとも見抜いていた。それなりの準備をしていたのである。ここでちょっと寄り道するが、番狂わせ特集で忘れてはいけないボクサーがいる。現役随一の大物キラー、佐々木基樹 (東洋太平洋ウェルター級王者II帝拳)。湯場、サンティリヤの強豪王者を下した男はこんなこ

とを言っていた。「最初にお互いの戦力を冷静に分析する。でもこれが皆意外とできない。なぜならボクサーは「俺が絶対に勝つ」と思い込みたいから」誰だって予想不利を認めるのは精神的にきつい、それを客観視しないと始まらないというのだ。サンティリヤンに挑戦する佐々木のコンピュータがはじき出した勝率は10パーセントだった。愕然とする数字である。だが一度認識してしまえば、あとは「その1割のケースにいかにして持ち込むのか、相手を引きずり込むのかばかりを考える」。戦略家にして勝負師、佐々木はそうやって

Upset, Upset!.....CASE.7
田内絹人 × 三浦数馬戦
強打で前日本王者2度ダウン

下田に勝った男・三浦が最強後楽園初戦で姿を消した。田内の強打で2度倒れ6回引き分け。最終回は攻め返し意地を見せるも敗者扱い(7月3日)

